

令和6年度シラバス（自己探究Ⅰ） 学番65 新潟県立出雲崎高等学校

教科(科目)	産業社会と人間（自己探究Ⅰ）	単位数	1単位	学科・学年・コース・組	1年次
使用準教科書	産業社会と人間 よりよき高校生活のために 四訂版（準教科書；学事出版）				
副教材等	自作プリント				

1 グラデュエーション・ポリシー・カリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の5つの資質・能力を育みます ①精神的な自立 ②社会的な自立 ③経済的な自立 ④希望への輝き ⑤ゆたかな情操
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力の育成を目的として、本校の特徴を活かし、次の6つに取り組みます ①安全・安心な空間 ②自己存在感の感受 ③学びの価値の実感 ④PDC Aサイクル ⑤教育的資源有効活用 ⑥自己決定する機会

2 学習の到達目標

高校生活スタートにあたって、単位制高校のしくみと特徴を知り、積極的に周囲との協調をはかる大切さを知る。
自分自身の生活、生き方を客観的にとらえ、自己理解をはかる。
自らの適性を考えながら、進路をふまえ適切な科目選択が行えるようにする。

3 指導の重点

単位制の授業の特徴を理解する。身近な職場や上級学校の様子について知る。
2年次の選択科目をよく考え適切な科目選択をする。自己理解を深め、自分の将来について考える。
積極的に授業に参加し、真剣にガイダンスノートに取り組む。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
自己理解をすすめる、他者を理解するために、正しく自己分析を行い、周囲に働きかけること、自他ともに尊重することを、学習活動の中から学び、理解し、実践に活かすことができる。	家庭・学校生活、様々な学習活動をとおして自分や周囲を正しく理解し、よりよい社会関係を築いていくために、自らの思考を深め、適切に判断する能力を持ち、その成果を表現することができる。	自分自身を様々な体験活動等とおして客観的に見つめ、考察、整理し、自己理解と分析を行う。自らの将来や、周囲への配慮、共感など、関心をもって意欲的に考え行動できる。

5 評価基準と評価方法

評価は次の3つの観点から行います。

知識・技能 (a)	思考・判断・表現 (b)	主体的に学習に取り組む態度 (c)
自己理解をすすめる、他者を理解するために、正しく自己分析を行い、周囲に働きかけること、自他ともに尊重することを、学習活動の中から学び、理解し、実践に活かすことができる。 〔評価〕 自己分析と自己尊重の大切さを A 十分理解できる。 B ある程度は理解できる。 C 今後の努力が望まれる。	家庭・学校生活、様々な学習活動をとおして自分や周囲を正しく理解し、よりよい社会関係を築いていくために、自らの思考を深め、適切に判断する能力を持ち、その成果を表現することができる。 〔評価〕 自ら考え、判断、表現することを A 十分行うことができる。 B ある程度は行うことができる。 C 今後の努力が望まれる。	自分自身を様々な体験活動等とおして客観的に見つめ、考察、整理し、自己理解と分析を行う。自らの将来や、周囲への配慮、共感など、関心をもって意欲的に考え行動できる。 〔評価〕 学びに関心を持ち積極的取り組みを A 十分行うことができる。 B ある程度は行うことができる。 C 今後の努力が望まれる。
以上の観点を踏まえ ・自己探究ノートの提出や内容の確認 ・自己評価 ・その他学習活動の成果物などから評価します。	以上の観点を踏まえ ・学習活動の取り組みの確認 ・自己探究ノートの提出や内容の確認 ・自己評価 ・その他学習活動の成果物などから評価します。	以上の観点を踏まえ ・学習活動の取り組みの確認 ・自己探究ノートの提出や内容の確認 ・自己評価 ・その他学習活動の成果物などから評価します。

6 学習計画

	単 元 名	学習活動(指導内容)	時間	評価の観点	評価方法
前 期	単位制のしくみと特徴 周囲と協調を図る大切さ	学習計画（履修の手引き・科目説明会・個別指導・面談）	8	a b c	自己探究ノ ートの提出、 内容
		SOSの出し方（自ら支援を求める方法を考える）	1	a b c	
	校外研修（地域の文化を学ぶ）	4	b c		
	自己理解	意識啓発講座（外部講師による高校生活について考える）	2	b c	自己評価
		お互いを知る（自他を大切にすることを学ぶ）	1	b c	
		心と体の講演会（自他を大切にすることを学ぶ）	2	b c	
		人権教育講演会（自己を見つめ、人権尊重を考える）	1	b c	その他学習 活動の成果 物
後 期	自己理解 進路を考える	主権者教育（主権者としての主体的な判断、取組みを考える）	1	a b c	
		命の大切さを学ぶ（自他を尊重することについて考える）	2	b c	
		職業を考える（職業について調べ、働く意味を考える）	1	a b c	
		職場上級学校見学（自らの進路について考える）	3	a b c	
		進路ガイダンス（個々の進路を具体的に考える）	6	b c	
		社会人講話（先輩社会人の講話から自らの将来を考える）	3	a b c	
		生活振り返り、レディネステスト（振り返りと将来活用）	2	a b c	
授業計画（次年度の準備）	1	b c			

計 38 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

自己探究ノート

8 担当者からの一言

高校生活の開始に合わせて、良いスタートで生活や学習を軌道に乗せていくために、周囲と自分の今を見つめることから始めて行きましょう。授業や様々な見学・体験のなかで、社会と自分のつながりをしっかりと考え、様々な問題に気づくこと。自らの適性をみつめた上で、将来を考え、希望の進路にあわせた科目選択を行う。

令和6年度シラバス（自己探究Ⅱ） 学番65 新潟県立出雲崎高等学校

教科(科目)	産業社会と人間 (自己探究Ⅱ)	単位数	1単位	学科・学年・コース・組	2年次
使用準教科書	産業社会と人間 よりよき高校生活のために 四訂版 (学事出版)				
副教材等	自作プリント				

1 グラデュエーション・ポリシー・カリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の5つの資質・能力を育みます ①精神的な自立 ②社会的な自立 ③経済的な自立 ④希望への輝き ⑤ゆたかな情操
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力の育成を目的として、本校の特徴を活かし、次の6つに取り組みます ①安全・安心な空間 ②自己存在感の感受 ③学びの価値の実感 ④PDCAサイクル ⑤教育的資源有効活用 ⑥自己決定する機会

2 学習の到達目標

<p>自分自身と社会、周囲の大切なつながりを理解し、よりよい社会関係を築くことや自らの将来を考え積極的に活動する重要性を理解する。</p> <p>(1)自分が社会、周囲と大きくかかわりながら生活を送っていることや、その重要性をしっかりと理解している。</p> <p>(2)自他の関係を客観的に考察することで、積極的にお互いのよい関係を築くことができる。</p> <p>(3)自己のあり方、生き方を考え、ライフプランをえがき、将来の方向性を具体的に考えて、適切な科目選択をする。</p>

3 指導の重点

<p>授業に積極的に参加し、様々な問題について積極的に考える。</p> <p>自己を客観的に受け止め、自らの適性を考えながら将来を考え、具体的な進路について調べていくことができる。</p> <p>自分自身、将来の希望、周囲の意見を広く考えながら、適切な次年度の科目選択を進める。</p> <p>積極的に授業に参加し、真剣に自己探究ノートに取り組み、提出する。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
自己理解を深めるために、学習活動とおして周囲の方々の様々な知見にふれ、先に迫る進路選択を視野にいれた自己研究をすすめる、その成果を蓄え、活用している。	学校・家庭での学習活動や生活とおし、自分自身や、周囲と自分のあるべき関係を正しく理解できるように考えを深め、適切に判断し、その成果を表現している。	自分自身や自他の関係性を様々な体験活動等とおして客観的に考察、整理し、理解を進め、自らの将来や、周囲への配慮、共感など関心をもち意欲的に考え行動しようとしている。

5 評価基準と評価方法

評価は次の3つの観点から行います。		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<p>自己理解を深めるために、学習活動とおして周囲の方々の様々な知見にふれ、先に迫る進路選択を視野にいれた自己研究をすすめる、その成果を蓄え、活用している。</p> <p>〔評価〕 自己理解を深め、自己研究とその蓄積、活用をすることを</p> <p>A 十分行うことができる。</p> <p>B ある程度は行うことができる。</p> <p>C 今後の努力が望まれる。</p>	<p>学校・家庭での学習活動や生活とおし、自分自身や、周囲と自分のあるべき関係を正しく理解できるように考えを深め、適切に判断し、その成果を表現している。</p> <p>〔評価〕 自他の関係を正しく理解、判断、表現することを</p> <p>A 十分行うことができる。</p> <p>B ある程度は行うことができる。</p> <p>C 今後の努力が望まれる。</p>	<p>自分自身や自他の関係性を様々な体験活動等とおして客観的に考察、整理し、理解を進め、自らの将来や、周囲への配慮、共感など関心をもち意欲的に考え行動している。</p> <p>〔評価〕 学習活動を通し自他の関係を理解し、意欲的なとりくみを</p> <p>A 十分行うことができる。</p> <p>B ある程度は行うことができる。</p> <p>C 今後の努力が望まれる。</p>
<p>以上の観点を踏まえ</p> <p>・自己探究ノートの提出や内容の確認</p> <p>・自己評価 ・その他学習活動の成果物などから評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ</p> <p>・学習活動の取り組みの確認</p> <p>・自己探究ノートの提出や内容の確認</p> <p>・自己評価 ・その他学習活動の成果物などから評価します。</p>	<p>以上の観点を踏まえ</p> <p>・学習活動の取り組みの確認</p> <p>・自己探究ノートの提出や内容の確認</p> <p>・自己評価 ・その他学習活動の成果物などから評価します。</p>

6 学習計画

	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価の観点	評価方法
前期	自己理解を図る	学習計画 (履修計画表により時間割・教室の確認)	1	b c	自己探究ノートの提出、内容 自己評価 その他学習活動の成果物
		自己探究Ⅱとは (自己探究Ⅱの学習内容・目標について)	1	a b c	
	社会・周囲とのつながり	進路について考える (進学や就職の心構え等)	1	b c	
		アサーション① (より良い人間関係の築き方を学ぶ)	1	b c	
		適性検査 (一般職業適性検査)	2	a b c	
		性の講演会 (自他を大切にすることを学ぶ)	2	b c	
		SOSの出し方 (自ら支援を求める方法を考える)	1	a b c	
		人権教育講演会 (自己を見つめ、人権尊重を考える)	1	b c	
		学習計画 (科目説明会・個別指導)	8	b c	
		主権者教育 (主体的な判断、取り組みを考える)	1	a b c	
自らの将来を考える	職場上級学校見学 (進路選択のきっかけとする)	3	a b c		
	進路学習 (進路選択について考える)	3	a b c		
後期	自らの将来を考える	社会人講演会 (職業講演会、事前・事後学習含む)	4	a b c	
		修学旅行学習 (周囲とのかかわりを考える)	1	a b c	
		進路活動 (就職や進学の具体的方法、求人票・履歴書他)	3	a c	
		アサーション② (生活を振り返り他者との関係を考える)	1	a b c	
		進路学習 (ガイダンス、進学、就職に分かれた講演会)	3	a b c	
	自己実現を図る	進路学習 (進路活動を進める上での自己理解を図る)	4	a b c	
		授業計画 (次年度の準備)	1	b c	

計 42 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

自己探究ノート

8 担当者からの一言

より豊かな人間性を身に付けるために、様々な内容の授業が行われる。自己理解・自己分析をし、適性を考えながら進路を考える必要を理解する。見学や体験等とおして社会との関わりを身につけ、また進路選択のために必要な履修計画を考える機会にしていく。

令和6年度シラバス（自己探究Ⅲ） 学番65 新潟県立出雲崎高等学校

教科(科目)	産業社会と人間 (自己探究Ⅲ)	単位数	1 単位	学科・学年	普通科・3年次以降
使用準教科書	産業社会と人間 よりよき高校生活のために 四訂版 (学事出版)				
副教材等	自作プリント				

1 グラデュエーション・ポリシー・カリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の5つの資質・能力を育みます ①精神的な自立 ②社会的な自立 ③経済的な自立 ④希望への輝き ⑤ゆたかな情操
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力の育成を目的として、本校の特徴を活かし、次の6つに取り組みます ①安全・安心な空間 ②自己存在感の感受 ③学びの価値の実感 ④PDCAサイクル ⑤教育的資源有効活用 ⑥自己決定する機会

2 学習目標

<ul style="list-style-type: none"> ・社会や周囲とのよりよい関係を考えながら、自己の現在、将来に向かっての在り方、生き方を考える。 ・自己理解をより深めることにより、積極的に自らの将来を考え、具体的に進路実現をはかる。 ・多くの人が寄り添い生きる、複雑な社会のなかで、協調し、主体的に生きていくために必要な準備を行う。

3 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> ・私たちを取り巻く様々な問題について、興味を持ち考えていくことができるようにする。 ・自己を客観的に受け止め、自らの適性を考えながら将来を考え、具体的な進路について調べさせる。 ・自分自身、将来の希望、周囲の意見を広く考え、共に生きる社会の中での自らのあり方、生き方を考えさせる。 ・積極的に授業に参加し、真剣に自己探究ノートに取り組んで完成し、提出できるようにさせる。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
自己探究の学習を進めながら、自他の理解と協働により成り立つ社会生活に必要な事柄を理解し、自ら直面する進路活動とおしての自己実現のために、積極的にその準備、実践をしている。	自己探究の学習を進める中で、自分自身や周囲と自分のあるべき関係、将来の生き方について積極的に考えを深め、周囲を理解し、周囲と自分が協力しながら適切に状況を判断して問題解決を図ろうとしている。	進路選択をひかえ、自己実現に向け学習活動をとおして自己探究を進め、自らの生き方、将来の生活を視野に入れ、意欲的に学習に参加し、高校生活をまとめていこうとしている。

5 評価規準と評価方法

評価は次の3つの観点から行います。		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
自己探究の学習を進めながら、社会生活に必要な事柄を理解し、進路活動とおしての自己実現のために、積極的にその準備、実践をしている。 〔評価〕社会生活に必要な事柄を理解し、積極的にその準備、実践をおこなうことを A 十分おこなうことができる。 B ある程度おこなうことができる。 C 今後の努力が望まれる。	自己探究の学習を進める中で、自分自身や周囲と自分のあるべき関係、将来の生き方について考えを深め、理解し、周囲と協力しながら適切に状況を判断して問題解決を図ろうとしている。 〔評価〕自己と周囲の関係、生き方の考えを深め、協力しながら問題解決をはかることを A 十分おこなうことができる。 B ある程度おこなうことができる。 C 今後の努力が望まれる。	自己実現に向け学習活動をとおして自己探究を進め、自らの生き方、将来の生活を視野に入れ、意欲的に学習に参加し、高校生活をまとめていこうとしている。 〔評価〕生き方や将来を視野に、意欲的に学習に参加し、高校生活をまとめることを A 十分おこなうことができる。 B ある程度おこなうことができる。 C 今後の努力が望まれる。
以上の観点を踏まえ ・自己探究ノートの提出や内容の確認 ・自己評価 ・その他学習活動の成果物などから評価します。	以上の観点を踏まえ ・学習活動の取り組みの確認 ・自己探究ノートの提出や内容の確認 ・自己評価 ・その他学習活動の成果物などから評価します。	以上の観点を踏まえ ・学習活動の取り組みの確認 ・自己探究ノートの提出や内容の確認 ・自己評価 ・その他学習活動の成果物などから評価します。

6 学習計画

	単元名	学習活動(指導内容)	時間	評価の観点	評価方法
前期	履修計画・自己探究Ⅲとは	時間割・教室の確認、自己探究の内容・目標	1	b c	自己探究ノート の提出、内容
	進路について考える	進路意識の涵養を図る	1	a b c	
	校内面接トレーニング①～④	年次担当や外部講師による面接の基本トレーニング	6	b c	自己評価
	職場・学校見学と事後指導	進路選択の参考のため職場、学校を見学し説明をうける	4	a b c	
	今後の流れと提出書類	就職・進学にわかれ、今後のスケジュール等を確認	1	a b c	
	意識啓発セミナー	進路手続きの確認とハローワーク職員によるセミナー	2	b c	その他学習 活動の成果 物
	進路学習	志望理由書作成、企業説明会参加について	1	a b c	
	心と体の講演会	外部講師による講演会	2	b c	
	面接トレーニング	年次担当や外部講師による面接実践など	3	a b c	
	進路活動	履歴書や志願書の作成、確認	3	a b c	
	最終面接トレーニング	就職・進学試験に向けての直前指導	1	a b c	
	SOS の出し方	周囲との関係の中での自らの表現、問題解決を考える	1	b c	
	人権教育講演会	自己を見つめ、人権尊重を考える	1	b c	
	後期	校外研修	校外活動を通し見聞を広め、周囲との関係づくりを学ぶ	3	b c
社会を知る		ボランティアについて考える	2	b c	
労働ワンポイント講座		ハローワーク職員による講座	1	a b c	
社会保障について		社会保障のしくみと生活との関わりを考える	1	a b c	
ジェンダー教育		ジェンダー問題を考え、問題解決のための考え方を学ぶ	1	a b c	
職業人としてのスキル向上		社会人として身につけるべき一般常識やマナーを考える	1	a b c	
ライフプラン	租税について考える	2	a b c		

計 38 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

自己探究ノート

8 担当者からの一言

自己探究Ⅲは、卒業年次での具体的な進路選択に備え、授業がより実践的な内容で行われる。進路選択に関して、また社会人への準備に関して考える大切な機会として授業を活用し、自分のこととして、真剣に取り組むこと。
